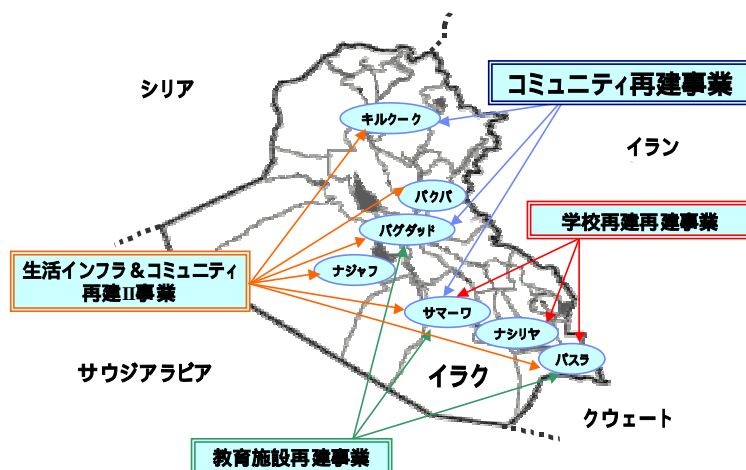




国連ハビタットは、都市とまちづくりの国連機関です。世界の全ての人々に適切な住まいを確保することを使命としています。国連ハビタット福岡事務所は、アジア太平洋地域事務所として、アフガニスタン、カンボジアなど 28 カ国を管轄し、貧困に負けないまちづくり、紛争後のまちづくりなど様々な活動を行っています。特に昨年 12 月に発生したインドネシア・スマトラ沖地震・津波に対しても、インドネシアやスリランカなどにおいて、積極的に緊急支援活動や復興事業を行っております。そして、本来管轄地域外ではありますが、同事務所が積極的に支援事業を進めているのが、イラクです。



**国連ハビタットによる
日本政府支援イラク復興再建事業**

まちづくり通信・イラク特集号 Vol.1でもご紹介いたしましたとおり、国連ハビタットは、これまでの戦争や経済制裁、またその後の略奪等によって甚大な被害を受けたイラク市民の住宅や学校、そして電気・上下水道・ごみ処理施設などの生活インフラの再建復興に取り組んでおります。現在は、初等教育施設を修復する「学校再建事業」、技術系大学など高等教育機関を修復する「教育施設再建事業」、そして住宅を再建する「コミュニティ再建事業」を行っており、まもなく4つめの事業として、孤児院



の再建やゴミ処理施設などの修復を行う「生活インフラ・コミュニティ再建事業」をスタートする予定です。特に「コミュニティ再建事業」では、日本政府の支援を得て、バグダッド、サマーワ、キルクークの3都市において、貧困層や戦争で夫を失った世帯、あるいは大家族を中心に住宅の再建に取り組んでいます。今号では、その中から、サマーワのイスカン集合住宅とバグダッドのマグリブ地区における住宅再建事業の様子をご紹介します。

[illegible]

サマーワ市中心部から少し西に位置するイスカン集合住宅は、1970年代に地方公務員用の住宅として建設されました。鉄筋3階建てのいわゆる団地のような構造は当時としては大変新しく、デザインも斬新だったそうですが、サマーワは戦争の被害こそ少なかったものの、旧フセイン政権下ではインフラの整備が遅れ、その後の西側諸国からの経済制裁の打撃を大きく受けた街です。この集合住宅も、建設以来一度も修理や再塗装が施されず、窓ガラスや

国連ハビタット・サマワ事務所の仕事は、まずこのイスカン集合住宅の住民を1軒1軒訪問し、室内外、配管・配線、塗装などの劣化状況を調べるところから始まりました。このイスカン集合住宅だけでも370世帯のイラク人家族が生活しておりますが、残念ながらサマワ全ての人の住宅を再建することはできません。国連ハビタットは地域のコミュニティ・カウンセラーと協力して、再建工事の対象となる世帯の選定作業を行いました。つまり、どの地域、どの世帯、どの家庭がもっとも支援を必要としているかの「優先順位」を取り決めたのです。適切な住まいと認められない、危険あるいは劣悪な環境で生活している世帯、夫を戦争で失った未亡人世帯、老人や障害者を家庭内に抱える世帯、子どもが多い世帯、などです。

ハサンさんの家族は、ご夫婦と子ども4人との計6人暮らしです。子どもたちは元気盛りの7歳、4歳、2歳と1歳です。食費をはじめ、収入に占める生活費の割合は増加する一方です。当然、住宅の修理にまではとても及びません。ハサンさんの住まいは、約30日の修復工事を経て、台所、洗面所、上下水道を中心に、清潔に、機能的に、そして何よりも安全に生まれ変わりました。ハサンさんは、話してくれました。「10年前からこの集合住宅に住んでいますが、水道設備がないので毎日水を汲みに行かねばならず、またトイレもいつも故障していました。それでも私たちには住まいがあるだけでも、まだ良いほうだと思ってきました。でも、こうしてすっかり綺麗になってみると、以前の生活とは全く違います。本当に夢のようです。有難うございました。」7歳の長男フセインくんは、国連ハビタットが再建したばかりのアル・サワリ小学校に通っています。「教室もきれいになったし、机もイスも新しいの。校庭のガレキやガラスがなくなったから、毎日外で遊べるんだ。」家も、学校も同時に綺麗になって、大喜びです。

[illegible]

国連ハビタットのコミュニティ再建事業は、バグダッドでも進められています。2005 年 3 月現在、バグダッド市内ほぼ中央に位置するマグリップ地区で、約 330 軒の住宅が再建中、あるいは再建準備中です。バグダッドにおいても、サマーワと同様の方



次号では、首都バグダッド、サマーワ、バスラで進行中の「教育施設再建事業」をご紹介します。略奪や戦争の被害を受けたサマーワ女子教員養成学校、バスラ技術大学実験室、バグダッドの工科大学など高等教育施設を再建し、イラクの若者にイラク復興の担い手として活躍していただけるよう1日も早い学究施設の修復を目指します。

法で、対象地区の住民たちと何度も話し合いを重ねながら、最も支援を必要とする世帯が選出されました。

現在、日本のニュース等でも私たちがいちばん目にするのが、首都バグダッド市の映像でしょう。バグダッドは人口 560 万ですが、イラク全体の人口が約 2500 万人ですから、全人口の約 4 分の 1 近くが集中する大都市です。鉄筋のビルが林立する一方で、都市貧困層が集中する地区もあります。国内経済の不安定な状況が続く、一層厳しい環境の中で生活している人たちも多いのが現状です。このマグリブ地区では、30 m²から 80 m²の住居に平均 7 人家族の合計約 2,300 人が住んでいます。戦争で夫を失った世帯が全体の 25% を占め、また戦争で住まいや家族を失い、緊急避難的に数世帯が共同で生活をしているケースも珍しくありません。地区世帯の平均月収も約 8,000 円と、現在のバグダッド平均の半分にも満たないとのこと。しかも建物の多くは 1920 年代初めの頃に建てられており、戦争被害に加えて、既に相当の老朽化や設備の劣化が進行しています。



バグダッド市：老朽化した扉の修復中の様子

険な状況に遭遇することはあります。暗くなつてからの作業、あるいはあまり大規模な人目を引く作業も危険です。予め危険が予測される場合は、事業を一時的に中断せざるを得ないこともあります。実は、再建工事中の住宅に、ミサイルが被弾したこともあるのです。幸い、けが人はありませんでしたが…。それでも、イラク復興への第一歩は、人々に安定した住まいがあつてこそ。私は、どんな復興事業よりもまず住宅の再建にとりかかることが重要だと思っています。」1920 年代にコミュニティが形成されてから一度も修理や国際支援が入ったことのないこのマグリブ地区の住民たちは、事業開始当初は、「本当に日本と国連ハビタットが私たちの家を再建してくれるのだろうか？」と懐疑的でした。しかし、ラフィッドさんを始めとするハビタットのスタッフの復興にかける決意と意気込みが通じ、今では、支援を受ける側の住宅の住民たちも、積極的に再建作業に参加しています。その中の 1 人、マグリブ地区の家に生まれ育ったアマルさんは 55 歳。奥さんと、6 人の子供と一緒に住んでいます。「今まで、私たちの家は崩壊寸前でした。戦争中の空爆の衝撃で、天井や壁の粘土は剥がれ落ち、毎日毎日、天井が落ちるのではないかと不安の中で生活していました。また、その隙間から、さそりや蛇が入ってきたりして大変怖い思いもしていました。でも、とてもそれを修理するだけの経済的なゆとりはありませんでした。」アマルさんは、天井や壁の工事が行われている間、自分でドアや残りの壁にペンキを塗るなどの作業に参加したそうです。「こんなに本格的な修復をしていただいて、これからも住み続けることができるのは、とても幸せだと思っています。」

最後に、国連ハビタットの監督の下でこの地区の再建工事を請け負った、バグダッドの建設会社のアミン社長が話してくれました。「この事業は、規模



老朽化した洗面台



修理された洗面台

バグダッドで再建事業を行う上で、一番の問題点は治安です。皆さんもご存知のように、現在も市民の安全を脅かす事件や事故が多発しています。再建対象住宅の劣化状況を見極めるアセスメント作業、地域住民を集めての説明会、イラク政府やバグダッド市当局との協議、いずれにおいても市民、工事の業者やスタッフの安全の確保に細心の注意を払いながら事業を行っていますので、なかなか予定通りに進ま

ないこともあります。資材を運搬する道路が、事前の予告なく頻繁に閉鎖されたりもします。国連ハビタット・バグダッド事務所の責任者であり、建築士でもあるラフィッドさんは言います。「たしかに危

としては決して大きいものではありません。でも、私はこの事業を通して、多くのイラク人を雇用することができました。多くのイラクの業者からセメントや資材を購入することができました。何より、こうして自分の家が生まれ変わって喜ぶイラク人の顔に接することができました。私たちの手で、イラク人の生活水準を向上し、より良い国づくりに貢献していることを誇りに思います。」ここでも、国連ハビタットの目指す「イラクの人々の手による自立支援」が、少しずつではありますが実現していることを実感する、大変嬉しく頼もしいコメントです。



バグダッド市：笑顔のあるコミュニティ



国連ハビタットからのお知らせ

2005年8月に国連ハビタット福岡事務所設立8周年を記念して、福岡市で活動パネル展や記念シンポジウムの開催を予定しています。詳細は下記のホームページにアップされますので、ぜひご覧ください。
お楽しみに!!

<http://www.fukuoka.unhabitat.org/>

▼日本ハビタット協会は、国連ハビタットの活動を支援しています。▼

「紛争災害後のまちづくり募金」 にご協力下さい

国連ハビタットは、イラク、アフガニスタン、カンボジア、スリランカ、インドネシアなど、戦争や災害で疲弊した「まち」の再建復興事業を実施しています。「人の幸せをささえる「まちづくり」」に御協力を宜しくお願い致します。

- 郵便振替 00150-2-17590 日本ハビタット協会
- みずほ銀行 麹町支店 普通口座 210-8468
日本ハビタット協会
- あおぞら銀行 本店 普通口座 6753952-001
特定非営利活動法人日本ハビタット協会

編集後記

依然として国連職員のイラク入国がままならない状況で、今回の取材をサポートしてくれたのは、バグダッドとサマーワに勤務する国連ハビタットのイラク人職員たちです。私は彼らと隣国クウェートで会い、今回のインタビューや写真などの打ち合わせをしてきました。今はまだ詳しくご紹介できないのですが、彼らは日常的に直面する様々な危険や困難を、彼らなりの方法で回避しながら、強い信念と驚くほどのスピードで事業を進めています。彼らは、国連職員である前に、イラク人として、愛する母国の復興の一端を担うことに誇りを感じています。住宅を再建しようとする使命感や、そこに住まう人々への深い愛情には、ただただ頭が下がる思いです。テレビの画面を通じて届くイラクの便りは、終わりのない爆撃やテロのニュースばかりのように思えることもありますが、同時に、復興の工事音が街に響かない日もあります。日本の皆様からいただいたご支援は、このようにイラクの人たちの手によって、イラクの人たちのために使われています。それをこのイラク通信を通して皆様にお伝えすることができれば、大変幸甚に思います。 **イラク担当専門官 星野幸代**

UN-HABITAT UN-HABITAT UN-HABITAT UN-HABITAT UN-HABITAT UN-HABITAT UN-HABITAT



空爆により崩壊した壁の修理：
再建前（上） 再建中（下）

特定非営利活動法人日本ハビタット協会

（発行責任：山本博子；監修：国連ハビタット星野幸代）

〒102-0083東京都千代田区麹町1-12ふくおか会館1階

TEL03-3512-0355 e-mail: info@habitat.or.jp

<福岡支部>

〒810-0001福岡市中央区天神1-1-1アクロス福岡8階

TEL 092-724-7121

e-mail: habitat.fukuoka@habitat.or.jp

HP: <http://www.habitat.or.jp>

2005年5月発行